

いかにして乱射事件に反応しないようにするか

エルパソやデイトン（メキシコ）事件に続いて、政治的暴力の要求が起こる

【訳者注】アメリカで、このような事件が起こるたびに、それがメディアの説明する単純なものでないことが、別のソースからわかってくる。規模の大きさとその内面の事情では、2017年の「ラスベガス大量射殺事件」に、これは似ているだろう。これはRTのニュースによるものだが、ここにロシアの偏見などはない。まず、この事件が起こるや否や（「死体がまだ冷え切らないうちに」—RT）、これを利用して、銃規制推進派（深層国家同調者）が、規制反対派に対して、尋常でない攻撃を仕掛けている。ここで言われているように、もともと「憎しみや暴力」に反対して起こしたはずの運動が、事件そのものに負けないほどの、憎悪や暴力を煽っている。これは明らかに尋常ではない。そして、この種の異常が今の米社会全体に起こっていること、それをメディアが当然のように扱うこと、または無視することが、異常ではないか？

RT News

August 6, 2019



エルパソやデイトンの致命的な乱射事件は、暴力や憎しみに反対する活動家が、今、彼らの憎む政治的ライバルに対する暴力を呼びかけていて、武器化されているように見える。どうしてこれが民主主義なのか？

上院の多数派リーダーMitch McConnell（共、ケンタッキー）は、どういうわけか、気がついてみると、この乱射事件の後で、あの有名な（オーウェルの『1984』の）「2分間憎悪」の対象にさせられていた。抗議者たちが彼の自宅を包囲して、死ねと叫んだ。ツイッターの有名人たちが、この暴力の幻想に巻き込まれた。彼らは、TV スターやメディア投稿者によって、悪人と決めつけられ誇張され、お前たちは、すべての白人と黒人の戦争、すべての「我々と彼ら」の公然たる戦争をやめよと、怒声を浴びせられた——もちろんこれは、「憎しみ」と「ファシズム」との戦争の名においてであった。

見本 A :

先週、民主党員らは、マコンネルを「モスコウ・ミッチ」と呼び、とうの昔に死に馬となっている、ロシアゲートを堂々と持ち出した。月曜日には、彼らは更に一步前進して、週末のエルパソとデイトンの殺戮に、彼は個人的に責任があると主張した。

RT.com 記事：「抗議者たちが、ミッチ・マコンネルの自宅の外で、〈刺し殺す〉と脅迫」

<https://www.rt.com/usa/465904-mitch-mcconnell-protest-threats/>

2 時間以上にわたって、抗議者たちはマコンネルの自宅にピケットを張り、口に言えぬ悪口を叫んだ。その一つはフェイスブックで、ライブで聞くことができるが、聞くに堪えないものだ。

「我々がここにいるのは、別の白人が人を殺すときには、彼によく考え、祈ってもらいたいからだ」と、別の抗議者は言った。明らかにそれは、銃乱射は人種差別者の憎悪の産物だというメディア物語に、便乗しようとする情熱からだった。——これはまだ調査中の問題である。

見本 B :

月曜日によく使われたハッシュタグの一つは、# MassacreMoscowMitch というもので、これは、NY タイムズのコラムニストや CNN の「最も影響力あるムスリムの Wajahat Ali に、「私はまだアメリカを信じている」と、言わせるためのものだった——もっとも彼は、反発を受けてこのツイートを消去した。

見本 C :

仲間の CNN 投稿者 Reza Asian は、さらに一步先を行き、こう論じた：——この乱射事件の後では「もはや細かいニュアンスなどはなくなり」、トランプ大統領の支持者たち——「彼らのすべて」——は「墮落した」悪なる人種差別主義者であり、「この社会から根絶されねばならない」者たちだ。

見本 D：

「もし私が大量乱射事件で殺されたら、私を火葬にして、私がまだ燻っている間に、私の灰を、ミッチ・マコンネルや Dana Loesch の眼に、投げつけてやってほしい」——これは、30 万の追随者をもつ、ツイッター有名人による月曜日の投稿であり、ダナ・リーシュは、全国ライフル連盟の元女性代弁者である。

このツイートは、テレビ女優のデブラ・メッシングによって即刻、賛同された。

見本 E：

さらには連邦議員の Joaquin Castro (民、テキサス) がいて、彼は自分の選挙地区のトランプ寄付者の、名前と職業を公表し、この者らは「ヒスパニック移民を〈侵略者〉と呼ぶ、ヘイト・キャンペーンを支援している」と言った。

見本 F：

銃乱射の余波として、民主党は、トランプ大統領が、人種差別と白人至上主義を弾劾し、否認するよう要求した。しかし彼がそのようにしたとき、彼らは、訳のわからぬことに、それでは十分でないと言い、NY タイムズに圧力をかけて、トランプの演説についての見出しを修正して、事実でなく、彼らの感情を反映するように要求した。

RT.com 記事「ニューヨーク・タイムズが、民主党 2020 出馬予定者からの反撃を受けて、一面の大量乱射見出しを変更」 <https://www.rt.com/usa/465918-nyt-headline-mass-shooting/>

滑稽で皮肉なことは、これらの厳しい批判が、「憎しみ」や「暴力」と戦うという名において始まったことなのに、まさにそれが起こっていることである。それを唱える者にとっては、彼ら自身の憎しみや暴力は、美德のスピーチだが、彼らに反対する者のスピーチは、受け入れられない暴力である——なぜなら、彼らは善だが、彼らの反対者は悪だからである。これは古典的な「誰が誰を」という見方だ。

彼らは熱心のあまり、これら 31 人のアメリカ人の死体が、まだ冷たくさえなっていないうちに、彼らの死を利用しようと、躍起になっている。家族に対して、その死を悼むことに向ける考えは全くなく、この種の「政治」には、それに分け与えられる分は、何ひとつないのだ。もしこのまま放置しておけば、それはセクト間の戦争につながり、さらなる死を産み出すだろう。

——以上